



## 新しい出会いが育む力 ～幼小一貫教育の中で～



新年度が始まり、早くも1か月が経ちました。子どもたちは、友だちや先生、地域の方々、異年齢の仲間との関わりを通じて、毎日様々なことを感じ、学び、少しずつたくましくなっています。5月は、そうした出会いを通して、心がぐんと育つ季節です。友だちと助け合ったり、年上の子にあこがれたり、年下の子を優しく見守ったり——。そんな日々の中で、「思いやり」や「自信」、「一緒にがんばる力」などが自然と身についていきます。

本校では、自然豊かな環境と温かな地域の支えのもと、幼稚園と小学校が連携した「幼小一貫教育」を大切にしています。小さい頃から同じ環境の中で育っていくことで、子供たちは安心してのびのびと過ごし、たくさんの人と関わる中で、自分の力を発揮していけるようになります。特に、異年齢の交流やつみきグループ活動(縦割りグループ活動)を通じて、「リーダーシップ」《導く力》と「フォロアーシップ」《支える力》を自然に学び、お互いを認め合い、支え合う気持ちが育っていきます。

これからも、ご家庭や地域の皆さんと一緒に、子供たちの『今』を大切にしながら、『これから』につながる成長を見守っていきたいと思います。どうぞ引き続き、温かいご支援ご協力をよろしくお願いいたします。  
(学校長 谷口 佳都司)

### ○台湾防災推進校との防災交流会

4月16日(水)、台湾防災推進校の小学生が本校・本園を訪れ、防災交流会を行いました。

はじめに、地震と津波を想定した幼小合同避難訓練を実施しました。子供たちは訓練放送を合図に運動場へ一次避難し、続いて津波警報を受け、標高約30メートルの避難場所へと移動しました。長い坂道を黙々と登り、12分で全員が避難を完了しました。

歓迎セレモニーでは、子供たちが「雑賀崎っ子ソーラン」を元気いっぱい披露し、心を込めて台湾からのお客様を迎えました。短い準備期間にもかかわらず、力を合わせて素晴らしい演技を披露することができました。

防災交流会では、台湾の小学生たちが防災をテーマにしたダンスやゲームを紹介してくれました。子供たちは、楽しみながら防災についての知識を学び合い、笑顔あふれる時間を過ごしました。言葉や文化の違いをこえて、心が通じ合う素晴らしい交流となりました。

今回の交流を通して、子供たちは防災意識を高めるだけでなく、台湾の友だちとふれ合う楽しさや大切さも学ぶことができました。子供たちにとって、大きな成長につながる貴重な経験となりました。

